

## 巻頭言

今回は、投稿論文2点、書評論文1点を掲載する。

佐伯 勇輔“Determinants for Appropriate Financial Structures for PPP

Infrastructure Megaprojects”は、運輸および電力セクターのメガプロジェクトに焦点を当てて、資本構造に最も大きな影響を与えるリスク要因を評価し、需要リスクの重要性を示すとともに、財務コストの観点から資本構造とリスク要因の関係を評価したものである。1) 需要と財務リスクは電力メガプロジェクトの資本構造と相関している、2) 需要リスクは財務決定を行うための重要な要素である、3) 運輸部門の需要予測には楽観バイアスがある、4) 資本構成とリスク評価はSPVの財務コストに影響を与える、5) ローン金利は需要リスクの確率を完全に表していない等の興味深い結論を導いている。

高井史代「中東・北アフリカ (MENA) 地域におけるエネルギー・電力分野の状況と課題分析」は、豊富な石油由来の天然資源を有する中東・北アフリカ (MENA) 地域も、近年の脱二酸化炭素の大きな流れの中で、太陽光発電整備を大規模且つ急激なスピードで推進しているとして、MENA 地域 20 か国のエネルギー・電力関連情報、政策及び課題について、公表されているデータや情報の比較分析を通じて、MENA 地域のエネルギー・電力分野に関する状況や課題を分析したものである。エネルギーや電力の半分程度が太陽光発電 (PV) に急速な勢いで置き換えられており、これらの PV 整備が主に IPP 事業として民間投資により推進されていること、一方、各国のエネルギー政策を鑑みると主力のエネルギー・電力源は安定性を求めて天然ガスと石油から変わらないことを結論としている。

両論文は奇しくも MENA のインフラに着目した論文であった。地球規模でみて現在 PPP の貢献がもっとも期待されている分野の一つであることを示唆していると思える。

もう一つの大きな期待分野がまちづくりである。今回は、書評論文として今井 隆太「足立基浩著 『新型コロナとまちづくり——リスク管理型エリアマネジメント戦略』 晃洋書房」を掲載した。同書に記述された「まちづくりの理論的整理とコロナ禍での変化」として、今後のまちづくり戦術の「7つの視点」、まちづくり・エリアマネジメントを担う組織像の今後等に焦点を当てたうえで、まちづくりの主体論のさらなる課題として、誰がどのような動機で担うのかの論点を整理している。今後、筆者なりの考察を深められるであろうことを期待できる書評論文である。

経済社会はコロナ禍による大きな影響を受けて、様々な分野で変化を余儀なくされている。PPP 研究も例外ではない。そうした中でも、今回も、才能あふれる気鋭の研究者から寄稿をいただいた。最終的に掲載に至らなかった原稿も含めて、いずれも PPP の将来性に光を当てる優れた視点を持つものであった。編集者として心からお礼を申し上げたい。

2021年9月

東洋大学 PPP 研究センター長

根本祐二